

パブリック・サービス研究分科会

講義年月日 2008年10月20日 午後2時15分～3時45分

講演者 高橋智 氏（慶應義塾大学斯道文庫准教授）
筒井利子 氏（慶應義塾大学三田メディアセンター）

テーマ 慶應義塾図書館における和装本研修と和漢古書目録作成
プロジェクトについて

講義内容

1. 和漢書の定義と区別について

和装本、洋装本は装丁の違いで区別する

内容については、目録で分類を行い、貴重なものはさらにここからセレクトする
和装本については、「国書」と「漢籍」の2つに分かれる

2. 蔵書の等級について

日本では、和装本が明治時代まで主流であった

書物の歴史→等級が明確に分けられる

図書館のステータス 「1点もの」は、所蔵している図書館のステータスを上げる
慶應のメディアセンターでは、等級別に分けて貴重書室の資料を整理した

3. 慶應義塾図書館の古典籍の概要

約34,000タイトル（約12万冊）

国書：約20,000タイトル

漢籍：約14,000タイトル

そのうち、貴重書・準貴重書約8,000タイトル

今のところは、図書館備え付けの蔵書目録のみ、古典籍の冊子目録なし、OPAC未収録

4. 問題点

全体像が不明、冊子目録の書誌が不十分、検索手段に限られる

→古典籍の目録整備の必要性 OPACへの登録、冊子目録作成など

5. 和漢古書目録編纂の経緯と概要

図書館学と書誌学、図書館員と研究者との融和と協力を特色とする和漢古書目録作成の
計画

特徴

- ① 国書・漢籍の特色を踏まえた、高水準の書誌情報を備えかつシンプルな目録
- ② 複数の書名・刊写年の明記・刊写注記・装丁・書型・旧蔵者・蔵書印

③ データは OPAC に反映させ、冊子体目録と OPAC それぞれの特徴から相補うもの

6. 和漢古書目録用のデータシートとマニュアル作成

① 表面は冊子体・OPAC の共通記載事項を記入、裏面に注記として OPAC のみの記載事項を記入

② 国書編と漢籍編の 2 種類を作成

それぞれの特長を生かすために別のマニュアルを作成。刊写年欄を空欄にせず推定でも必ず明記し、独自の時代区分表も作成

7. プロジェクトの成果

① 古典籍入力基準の確定

② 書誌データの整備・OPAC への登録

③ 貴重書目録の刊行

8. 和漢貴重書目録刊行予定 (2009 年 3 月)

① 収録対象：和漢の貴重書 約 1200 点

② 目録データ：国書・漢籍の書誌事項と注記

③ 図版解説：40 点 和漢それぞれ 20 点ずつ解説

9. 今後の課題

① 長期のプロジェクト

② 他の事業との関連

③ 目録作成作業人員の確保

④ 点検者の不足

以上